平和への第一歩

「へぇ〜、そうなんだ」

小学生の頃、初めて戦争の話を聞いた時、私はそう思いました。なぜなら戦争は、遠い昔の外国だけの話だと思っていたからです。しかし、小学校高学年の社会の授業で、日本は１９４５年まで戦争を続け、多くの犠牲者を出していたとことを学び、驚きました。

ただ、今こんなに日本は平和なので本当に戦争があったのか信じられませんでした。父や母に尋ねると、自分の曾祖父、その家族なども戦争に行き、亡くなったと教えてくれました。そこで初めて「日本で戦争があったということは事実なんだ･･･」と思い、戦争を身近に感じました。

そんな時、耳を疑うニュースが飛び込んで来ました。2022 年、ロシアによるウクライナ侵攻です。テレビには連日爆弾が落ちた街、家族が戦争に行き悲しんでいる人たちが映し出されました。特に、父親の顔を見ることなく戦争で父親を亡くした子供の話を聞いた映像には胸が締め付けられる思いがしました。その時に初めて「戦争は昔だけの話じゃない、今も”戦争”は起こっているんだ。」と知りました。調べてみると、今の時代の戦争はウクライナ侵攻だけでなく、あらゆる国や地域で、内戦・紛争が起こり、一時的なものでないこともわかりました。

夏尾中学校では毎月１回、「命の大切さについて考える日」というものがあります。その中で、日本の戦争が終わった後も、2001 年のアメリカ同時多発テロが起こり、そこから戦争につながり、多くの被害者が出て、世界的にも大きな被害になったと聞きました。また、現在に至るまで戦争の火種はあらゆるところで起こり続けていると知り、驚きました。

また、戦争をしていない国も教えてもらいましたが、なんと、世界の平和と安全を維持することを目的とする国連加盟国 193 カ国のうち、わずか 8 カ国だけだったのです。私は戦争が「国同士の喧嘩」と思っていたので、喧嘩を避ければ戦争は起こらないのに。

もしかして、戦争は喧嘩とは違い、もっと大きな理由があるのではないだろうか？と思い、調べてみましたが、本当に国のトップ達が考えているのか？！と思えるほど懐疑的で、「話し合いで済ませればいいのに」と思えるものばかりでした。「自分が正しいから自分を優先するべきだ。」「自分の言う事を聞かないなら力で勝負するぞ！」と言っているかのように武力行使を行い、それが戦争になり、結果、多くの犠牲者を出していたのです。

本当に、国同士が武力で争うことに何の利益があるのでしょうか。

夏休みの登校日の平和学習で、「蒼天の向こうへ」という知覧特攻基地から出撃した延岡出身の特攻隊員と家族、当時の状況について、特攻隊員の父親の手記を基に制作された作品を鑑賞しました。観ていく中で、戦争に駆り出されていく特攻隊員の表面上は明るく振る舞っているけど、行きたくない気持ち、絶対に行ってほしくないという特攻隊員の家族の辛さ、戦争の恐ろしさが鮮明に想像でき、改めて戦争は起こしてはいけないものだと強く思いました。

もし、私がその時代に生まれていたら・・と考えると恐怖でしかありません。特攻隊員の多くは、私たちと同じ未来ある若者だったはずです。その未来が、悲惨な争いによって奪われていると考えると、深い悲しみや怒りを感じます。調べれば調べるほど戦争をすることで誰が得をしたのか、何のための戦争だったのかわからなくなりました。こんな戦争は、絶対にしてはいけない、なくさないといけないということが私にでもよくわかります。

今、私たちの暮らす日本が平和であるのは、戦争を経験した方々が、平和への強い思いをもって、懸命に努力してくれたおかげです。その努力を無駄にしないためにも、私たちも戦争の悲惨さを語り継ぎ、平和の大切さを伝えていかなければなりません。私たちはこれからも、互いを認め合い、尊重し、協力していける、日本だけでなく世界が平和になる未来を創る一員として努力し続けることを誓います。

都城市立夏尾中学校
生徒代表　３年　小濱　維真